

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA		THE YS MENS CLUB OF ATSUGI
AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF YS MEN'S CLUBS CHARTERED IN 2004		4 - 1 6 - 1 9 NAKACHO AT SUGI
		KANAGAWA JAPAN 〒 2 4 3 - 0 0 1 8
		TEL 046(223)1441 担当主事 吉永貴弘

2015年9月 会報 厚木ワイズメンズクラブ 第132号

堀田クラブ会長 若者とともに楽しく活動しよう
 主 湘南・沖縄部部长 一人ひとりが愛と平和の種をまこう
 東日本区理事 原点に立って未来へステップ
 題 アジア地域会長 愛を持って奉仕
 国際会長 信念のあるミッション

今月の聖句(強調月間 ユース)

剣をうちかへて鋤となし、その槍をうちかへて鎌となし、国は国に向かひて剣をあげず、
 戦闘タツカイのことを再び学ばざるべし。 イザヤ書2章4節

7月例会報告(7月22日) 部長公式訪問
 種を蒔こう!



今城部長、林書記、岡田会計、辻つづきクラブ会長、鈴木前会長、林理子さんの6人という大勢で

きていただき、つづきクラブのかたい絆を垣間見るおもいがしました。
 部長の所属される「つづきクラブ」に、10年ほど前、勧められるままに入会し、メンバーのみなさんの素晴らしい人柄、社会活動をみんなで力を合わせてすることの素晴らしさを味わい、入会してよかったとしみじみ思っておりますと入会して10年の回顧からお話しは始まりました。

基本方針として新理事の掲げられる「原点に立って、未来へステップ」つまり20年前東日本区発足時の基本方針「部を強化し、事業推進の主体をクラブ・部とする」に基づき、クラブ、部で十分議論を尽くし長期的視野に立った新しい目標を設定し、早急な

成果を期待するのではなく、最初の一步を踏み出す年「種まく年」としたい。

また各クラブでは自由闊達な雰囲気づくりと組織基盤の強化に努めていただき、事業推進の主体はクラブとの基本方針をしっかりと認識してほしい。

そのあと個別事業についてのお話がありましたが、詳しく部報に記載されていますので、ここでは割愛させていただきます。

特に強調されたことは各クラブの会員増強であり、各クラブ2人の会員純増を是非達成してほしいということであります。7月1日の半年報(クラブ会員数の報告書で年2回1月1日と7月1日に各部から区に報告するもの)では湘南沖縄部は1月の134人から118人に減。目標として150人に少しでも近づきたい。

部長の率直な感想として、部単位としての催し例えば部会、・新年会・部評議会など、私自身クラブ活動に感じるような一体感、目標を共有する仲間意識を覚えたことは余りなかったと。どうしたら部の活動を活発で楽しいものにできるか、先ずクラブでみんなでワイワイガヤガヤ意見を述べ合いそこでの意見を持ちこんで部でさらに話し合い、部として、皆

例会データ	8月	在籍会員 20人
会 員	15人	メイキャッツプ済み
ビジター	2人	出席率
ゲ ス ト	人	
合 計	17人	75%

例会のご案内	会 長	堀田 哲郎
原則として第4水曜日18時	副会長	石井 芳隆
半から2時間	副会長	川口 知幸
お問い合わせ先	書 記	小林 秀
	書 記	千葉 裕子
Tel 046-223-1441 吉永貴弘	会 計	岩淵 正弘

が一つとなって進めるプログラムを立ち上げては如何でしょうか。みんなで考え、みんなで汗を流すことにより一体感や目的意識が醸成されるものと確信します。

その一環として研修会を、毎年研修会を実施しておられる横浜クラブの協力を得てぜひおこないたいし、甲府へのエクスカージョンなども検討してみたいとのこと。(SK)

最近一番感動した読書から 田口堅吉

パキスタン東部の干ばつ地域で灌漑事業を進める
中村哲医師の14年度事業報告の劈頭の言葉



「緑の大地計画」が立案されたのが確か2002年でした。当時「アフガン復興支援」で世界中がわいていましたが、私たちの訴え続ける干ばつと飢饉はあまり重視されなかったと覚えています。

2014年12月、破壊と大混乱を残して欧米軍が去っていきました。あの軍事介入が何だったのか「対テロ戦争」とは何であったのか、心穏やかではありません。

「テロとの戦い」と言いさえすれば何でも正当化されるような狂気が、この十数年の世界を支配してきました。実際アフガニスタンでは、異を唱える者がテロリストと烙印を押され、容赦なく抹殺されていきました。その多くが国際テロ組織とは無関係な、弱い立場の人々でした。無差別爆撃による膨大な犠牲は「二次被害」と呼ばれました。

イスラム教徒に対する偏見が意図的にあおられ、人々の間に多くの敵対が作り出されました。病的な残虐行為や拷問は日常でした。だが、欧米軍兵士もまた犠牲者でした。その多くは貧しい階級の出身で、社会的事情で志願し、半ば駆り出された人々でした。少しでも良心を持つ者の一部は、自殺に追い込まれました。

これが現地を見た「テロとの戦い」でした。細々と

でも保たれてきた人間の英知とモラルは、これによって一挙に後退しました。欧米では預言者を揶揄することが流行り、それが表現の自由であるとされました。世界全体が、露わな暴力主義と排他主義の毒に侵されてゆくように思われました。利権を主張して弱者を圧するのが当然のように言われ始めたのです。

このような世界をためらいつつ歩んできた日本もまた、良心の誇りを捨て、人間の気品を失い、同様に愚かな時流に乗ろうとしているように思えます。先は見えています。アフガニスタンを破壊した同盟者にならぬことをねがうばかりです。

しかし、現地事業のおかげで垣間見える世界は、全く逆のものです。少し目を開けば、戦いや目先の利によらずとも、多くの恵みが約束されていることが解るからです。

今、次の段階への飛躍に当たり、立場を超えて実に多くの人々が協力しています。ここに希望と平和の基礎をみるからです。

先は長い道程ですが、このオアシスこそ、飢餓に苦しむ人々だけでなく、私たち自身をも励ます力であることを訴え、変わらぬ協力に感謝いたします。

(中村医師を支援するペシャワール会会報NO124から転載しました。なお「緑の大地計画」は現在大詰めにさしかかり、9か所の取水堰が築造され砂漠の原野16,500ヘクタールが農地によみがえり65万人の農民が帰農するまでに復興しつつある由です。)

☆9月活動予定

☆9月1日(火)19時～ 第70回Y. Ys協議会

横浜YMCAにて 当番厚木YMCA、厚木クラブ

☆9月16日(水) 区大会にかかわる交流会

長野クラブにて 実行委員長、会長出席予定

☆9月26日(土) 湘南・沖縄部部会

ワークピア横浜にて 部会16時から

講演 ボランティア活動の勧めと喜び

講師 岡戸良子さん 横浜Y 常議員

懇親会 18時から20時まで

登録 会長に15日までに申告ください

お誘い合って一人でも多くご出席ください

☆9月30日(第5水曜日)厚木クラブ例会

卓話 防災について 講師 小松さん